

パネルディスカッション

専修大学経済学部の小池隆生教授と鈴木奈穂美教授をコーディネーターに迎え、活動紹介した5人のパネリストが参加者から寄せられた質問に応える形でパネルディスカッションを行いました。



Q

活動の運営面について苦労している点はありますか？

A

- ・財源の確保に苦慮しており、さまざまな助成制度を充てるなどで資金繰りをしています。類似する取組の先進事例を見学してヒントを見つけるなど、自立した活動を継続させるための仕組みを考えています。
- ・運営面での苦労ではありませんが、役員などの会議をしっかりやるのが大切だと考えています。誰かが決めたことを伝えるのではなく、欠席者なるべく減らし、みんなで相談するための場とすることがポイントです。

Q

より多くの人に参加してもらうためにはどのような工夫をしていますか？

A

- ・参加者や仲間を増やすためにはまず声かけを実践することです。顔見知りにも声をかけるところから始めましたが、ダメで元々と大学にも呼びかけた結果、大学生とのつながりも生まれました。今後も活動を継続させるにはもっと仲間が必要です。地縁のネットワーク組織などにも声かけを広げていきたいです。

- ・情報を届けるために手を伸ばすこと（アウトリーチ）が大切だと考えています。今回の集会のような機会でのつながりを活かし、地域の方に色々な情報を届けていきたいです。



総括

鈴木奈穂美教授（専修大学経済学部）

今日の話聞き、ご近所のパワーアップの源ってこんなものがあるんだなという3点を感想として述べ総括とします。

- ①「活動している私が主役、そしてあなたも主役」というメッセージがどの活動にも含まれていました。非常にオープンなスタンスで活動していて、仲間づくりをとてもしっかりとされていると感じました。
- ②活動継続の工夫を各団体がよく考えてやっていると感じました。「楽しむこと」「笑顔」「無理をしない」というキーワードの他、組織運営の透明化や組織を越えたつながりづくりを熱心に仕掛けている方が多いという印象を受けました。
- ③地域の人を社会から取り残さないため「アウトリーチ」というキーワードが出ていました。家に訪問するなど、足を運ぶことを重ねて自分たちの活動を知ってもらい、地域の人たちと顔見知りになって関わりを深めていくというお話でしたが、日ごろの当たり前前活動の中で実践しているのは「すごい！」の一言に尽きると感じました。



2019年度

生田ご近所 パワーアップ集会

レポート

令和元年11月23日（土）

15:00~17:00

専修大学サテライトキャンパス

- 5団体による活動紹介
- パネル展示/ 防災グッズ紹介など
- パネルディスカッション

主催：多摩区役所地域みまもり支援センター 共催：専修大学社会科学研究所

生田ご近所パワーアップ集会を開催しました

生田東地区民生委員児童委員協議会のエリア（枳形1~7丁目、生田1~5丁目、東生田1~4丁目、東三田2丁目）を対象に「生田ご近所パワーアップ集会」を開催しました。今回は東三田2丁目に立地する専修大学社会科学研究所と共催して行いました。



対象エリアで活躍する5つの団体が活動内容を紹介



後半のパネルディスカッションで議論をさらに深掘り

地域活動を楽しもう！

「まず自分たちが楽しむ」ことが地域活動をより活発で魅力的なものにするための秘訣であることが今回の集会を通して伝わってきました。日頃のあいさつや身近な活動への参加など小さなことの積み重ねから地域のつながりが生まれます。自分たちが無理なくできることから、ぜひ一歩踏み出してみてください。新しい発見があるかもしれません。

専修大学の学生さんにも集会を盛り上げてもらいました



参加者同士の交流から新たなつながりも生まれました

パネルやチラシを使い地域情報を広報



生田ご近所パワーアップ集会とは？

地域で行われている活動の内容を知ること、すでに地域活動をしている人やこれから地域に参加してみたいという人のつながりづくりやきっかけづくりを目指した集会です。生田地区の民生委員児童委員協議会の区割りを参考に平成30年度から開催しています。

5 団体による活動紹介

生田東地区民生委員児童委員協議会

生田東地区民生委員児童委員協議会は、現在23名(令和元年11月時点)で活動しており、うち2名は主任児童委員です。主な取組として、①土淵と飯室での地域子育てサロンすくすく、②東生田小学校を中心とした児童の登下校の見守り、③災害時要援護者への支援、④新聞販売店と連携した見守り活動、⑤「買物難民」対策、⑥生田地区社会福祉協議会との連携事業などを行っています。

これらの活動をお互いに協力し、地域の方々の喜ぶ声が聞こえるよう取り組んでいます。私は平成19年から活動に参加しています。辛かったこともありますが、委員同士の素晴らしい出会い、知らなかった地域のことが分かるようになり、地域の方々とも触れ合えて、やっつけて良かったなと思っています。



いいむろしょうじゅかい 飯室松寿会

7つの町会を基盤にして、現在91名で活動をしている老人会です。活動をやめる老人会がある中で、昨年は21名も増えました。飯室松寿会のスローガンは、「健康・友愛・奉仕」です。

「健康」は健康寿命を延ばすことです。「友愛」では身体が弱くなった在宅の方を訪問します。昨年は認知症介護教室を開催し認知症は病気ではないということを学びました。そこで何を実践したかと言うと、そういう人たちにカラオケ会や誕生会に参加してもらいます。約束しても忘れてしまうので、玄関まで行って送迎します。これも「友愛」の一つです。「奉仕」では小学校の昔遊び教室の先生や多摩川のゴミ拾いをしています。老人会に入るのに年齢制限はありません。若くても入れます。誘われたらすぐ入って下さい。それが自分の寿命を延ばすことにつながります。仲間を増やせば認知症は遠ざかります。

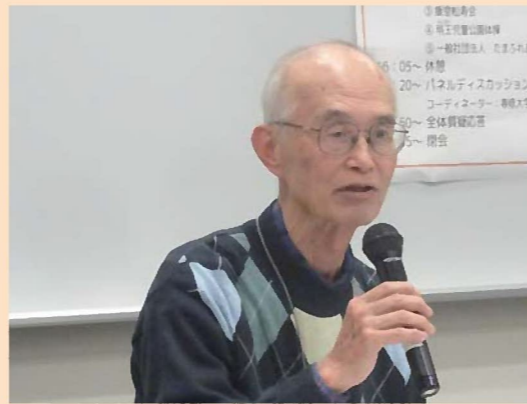


いだてん 韋駄天カフェ

「コミュニケーションが活発な地域は健康な方が多い」という話を聞き、この地区にもカフェが欲しいなと思いスタートしました。大道自治会、稲目町会、大谷自治会と有志のメンバーが発起人になり、今年4月に実行委員会を開きました。実行委員には専修大学の学生(SIV)も入っています。この地域に縁の深い天神社の韋駄天神から取って、韋駄天カフェと名付けました。

目的は、ご近所と顔見知りになる、健康寿命を延ばす、地域包括ケアシステムにある自助・互助の意識を高める等です。

高齢の方に限らず、幼児からシニアまで誰でも参加出来ます。参加費には地域通貨「たま」が使えます。今年の5月からスタートし、季節に応じて色々な催しをしています。今後の課題としては、サポート体制の強化ということで、東生田町会連絡協議会の町内会・自治会への声掛けや近隣の団体や大学との連携等を考えています。



SIV(専修生田ボランティア)

普段は防災や防犯に関する活動を行っています。地域の方や子どもたちを対象に、ゲームやクイズを通して防災意識を高めてもらうことを目的としています。韋駄天カフェにおいても防災クイズや新聞紙スリッパづくり等を行いました。

韋駄天カフェの実行委員会の一員として、これからも地域の方々と交流を深められるよう努力していきたいと思っています。大学生が関わるということは地域としても珍しいと思うので、今後も若い力として地域に貢献する活動が出来たらと思います。



参加者向けに防災啓発グッズの紹介をしてもらいました

みょうおう 明王児童公園体操

平成26・27年に町会の婦人部長をした時に、少しでも地域に役立つものを残したいと考えていました。そこで公園体操について、当時の町会長と民生委員さんに相談したところからスタートしました。毎週水曜日の午前9時から30分間、CDに合わせて体操します。参加者が22名いることでクラブとして認めてもらい、CDラジカセの電池代は町会からいただいています。参加している人は体操が楽しみと言ってくれています。

わずか30分の体操ですが、とっても良い体操なのでもっともっと大勢の方に参加して欲しいです。体操をすると、身体が軽くなった気がします。まだ始めて3年ですが、皆さん和やかに協力してやっています。歳を取ってから地域に貢献出来ることの醍醐味を感じています。自分はダメだではなく、一人ひとりが前に進んで欲しいと思います。これは自分のためなんです。



一般社団法人 たまふれあいの森

たまふれあいグループは、訪問診療を専門とするクリニックや訪問看護ステーション等、医療、介護、福祉の総合体として事業を行っています。その一つに非営利的な活動であるたまふれあいの森があります。たまふれあいの森では、地域の方や専門職を対象とする「勉強会・講演会の企画・実施」と、町内会・自治会や地域のカフェ等に伺い健康相談や健康チェックを行う「まちの保健室」を行っています。

まちの保健室には70~80歳代の方を中心に毎回約30名が参加します。何かあった時に連絡が取れるように参加者には電話番号を渡しており、実際に支援に結び付いた事例もあります。常設で窓口を構えているわけではなく町内会・自治会と連携しながら地域の方に医療福祉の啓発をしています。今後も皆さんと協力しネットワークの構築を図っていけると良いと考えています。

